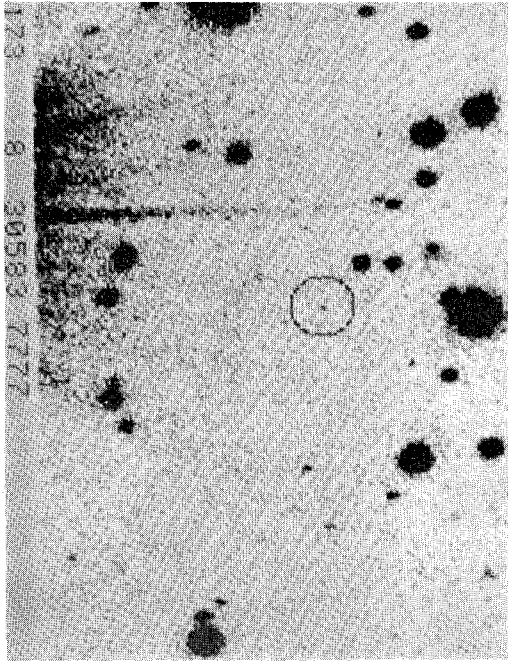


雑 報

ハレー彗星の回帰が検出された

IAU天文電報中央局からの天文電報によると、ジェット推進研究所のジュウイットとダニエルソンは、パロマ天文台の5m反射望遠鏡の直接焦点にCCD受光器を装着して、次の位置にハレー彗星の像を検出し、確認した。



(UP I サン=共同)

U.T. α (1950.0) δ

1982年10月16.47569日 $7^{\text{h}}11^{\text{m}}01^{\text{s}}.9+9^{\circ}33'03''$

光度は実視等級で24.2等、近日点通過は1986年2月9.3日で、ヨーマンスが発表した予報位置と8秒角しか離れていない。また検出時の地心距離は10.93 au、日心距離は11.04 auであった。写真は検出時のもので、ハレー彗星は円で囲まれた小さい像で、画面左外にあるハレーシヨンを伴った明るい星はAGK 3+9°854星(8.2 mp, K0)=SAO 115101星で赤経 $7^{\text{h}}11^{\text{m}}07^{\text{s}}.041$ 赤緯 $+9^{\circ}33'18''.53$ (1950.0)である。画面は左右(東西)が約1分角に相当する。(上が北・左が東)

(香西洋樹)

新刊紹介

Sky Catalogue 2000.0

—Volume 1: Stars to Magnitude 8.0—

A. Hirshfeld & R. W. Sinnott 編

(Sky Publishing Corporation & Cambridge University Press 発行, 1982年, 604頁)

1981年に同出版より発行された“Sky Atlas 2000.0”の姉妹版で、実視等級8.05より明かい45,269星の基礎データの集大成。コンピュータを利用して、甚大なデータの整理・更新をして作りあげたもの。既存の星表のデータのなかには更新しなければならないものがあること、座標の epoch が2000.0年になっていること等のため、次第に便利に使われるであろう。

なお、第2巻は、銀河・星雲などの他に星団、連星についてもくわしく扱う予定。(編集部: 平林 久)

1982年9月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	10,	69	6	—,	—	11	—,	—	16	—,	—	21	9,	102	26	12,	52
2	13,	91	7	12,	75	12	—,	—	17	9,	119	22	7,	94	27	11,	97
3	14,	116	8	—,	—	13	7,	56	18	9,	112	23	—,	—	28	9,	146
4	14,	163	9	11,	87	14	10,	79	19	—,	—	24	—,	—	29	8,	145
5	17,	166	10	—,	—	15	—,	—	20	—,	—	25	—,	—	30	—,	—

(相対数月平均値: 152.0)

昭和57年11月20日	発行人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所	〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町251	啓文堂 松本印刷
定価 300円	発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話 三鷹31局 (0422-31) 1359	振替口座 東京 6-13595